

## 発刊に寄せて

加藤 倉三

私達の松本歯科大学に学会が誕生し、機関誌として「松本歯学」が発刊されるに至ったことは、まことに大きな喜びであります。

今さら言うまでもなく、歯科大学の使命は、教育・研究・診療の三本の支柱の確立と、これに向っての絶えざる努力の傾注にあると思います。研究を行い、業績を世に示し、歯科医学の進歩発展に寄与することは大学に課された一大責務であります。この観点から、開学以来、研究成果の発表機関、研鑽の場としての学会の設立、学会誌の刊行は教員はもとより、本学関係者全員の待ち望んでいたところであります。

新しく生れ出たユニークな歯科大学として、新鮮にして澁刺たる真摯な業績が、陸続として、本誌上を飾り、歯科界に貢献することを期待して止みません。

私は、第二次世界大戦直後に、用紙の不足を初めとするいろいろな困難のもとで、学会誌の編集に携ったことがありました。遠い将来を思うとき、いつの日か、予測もできない様な困難に逢着することがないとは断言できません。どうか、この「松本歯学」が、如何なる困難に遭遇しようとも、歯科医学の進展に寄与する大目的のため、末長く、たくましく歩みを止めることなく、前進することを祈って止みません。

学会の運営に、そしてさらに学会誌の編集に、将来お骨折りをおかけするであろう方々に、今日から深い敬意と謝意を表したい気持で一杯であります。

松本歯科大学学会と「松本歯学」とが、松本歯科大学と共に、末長く発展することを重ねて心から祈念いたします。